

〈協同のひろば〉

協同金融研究会の新たなる発展についての報告

平石 裕一 (協同金融研究会事務局長)

1. 新組織の発足

本研究会は、協同組織金融機関である信用金庫、信用組合、農業協同組合、労働金庫の4業態に関連する役職員や学識経験者が、協同組織金融機関に共通する問題や課題について情報交換、意見交換等できる勉強の場をつくろうという動機で集まり、93年5月第1回研究会を皮切りにして継続的な活動を続けてきたが、更に飛躍を計る為に組織の改革と業務の拡大を計ろうとしたものである。呼びかけに応じて参加した会員は74名、賛助会員は16団体だった。(9月12日現在)

信用金庫関係	22名	信用組合関係	12名
労働金庫関係	16名	農協関係	6名
学識経験者	10名	生協総研	3名
その他	5名		となっている。

また、賛助会員はそれぞれの会員の属するところの機関や中央団体、関連研究所である。

総会は7月26日生協会館で開かれ、会則の承認、会の運営の事務局として4業態プラス生協総研から各2名ずつ選出、事務局長に平石裕一、監事に山岡英也を選出した。また、事業の運営は会則に従い定例研究会(隔月夜)を開催する他、研究会の記録や学識経験者等による時評や協同組合関連情報を盛り込んだ『ニュースレター協同金融』の発行が了解された。

2. これまでの研究会の内容

第1回 93年5月「最近の金融情勢と地域協同金融」吉田暁(武蔵大学教授)

第2回 93年7月ミニシンポ「各協同金融機関の現状と課題」

座長：森静朗(日本大学教授)

第1報告：平山恵三(多摩中央信金常勤理事)

第2報告：高木安典(全国信組連常務理事)

第3報告：炭本昌哉(農林中金総合研究所首席研究員)

第4報告：杉本時哉(全国労金協会相談役)

コメンテーター：信金・信組

斎藤正(駒沢大学教授)

クオア・オウ・クオア：農協・労金

村本孜(成城大学教授)

第3回 93年9月「最近の金融情勢と協同組合金融の課題」鶴飼克(全銀協理事)

第4回 93年11月「会員・顧客基盤の変化とそれへの対応について」

第1報告：相川直之(朝日信用金庫常務理事)

第2報告：石橋勝美(大栄信用組合会長)

第3報告：高橋五郎(農村金融研究会主任研究員)

第4報告：大川譲二(首都圏労金経営研究所事務局長)

第5回 94年1月「ドイツ協同組合銀行グループの最近の活動と課題～国際的展開と提携を含めて～」A. ビュルクナー(DG銀行アジア地域総支配人)

第6回 94年3月「94年度の各協同金融団体の経営課題について」

第1報告：道関昌彦(東京都信用金庫協会センター所長)

第2報告：篠原和彦(東京都信用組合協会専務理事)

第3報告：望月 徹(農林中金総合研究所調査第一部長代理)

第4報告：梅孝次郎(全国労働金庫協会企画部次長)

第7回 94年5月「持続可能な社会ともう一つの経営～協同金融機関の21世紀戦略(試論)」大嶋茂男(生協総研主任研究員)

第8回 94年7月「協同金融機関の社会貢献活動について」

第1報告：原 弘保(静岡県労働金庫)

第2報告：石田信隆（農林中金総合研究所）

第3報告：小谷信敏（全国信用組合連合会企画部調査課）

第4報告：橋本一夫（全国信用金庫協会企画部調査課）

大塚方美（関東信用金庫協会業務第2課）

第9回 94年9月「中小零細企業の育成金融について」阿部孝司（国民金融公庫総合研究所審議役）

第10回 94年11月シンポジウム「21世紀に向けた協同金融の展望と課題」

座長：平石裕一（協同金融研究会事務局長）

①信用金庫の展望と課題

報告・平山恵三、討論・相川直之

②信用組合の展望と課題

報告・高木安典、討論・安田原三（日本大学教授）

③農業協同組合の展望と課題

報告・炭本昌哉、討論・平野稔（農協共済総合研究所調査研究第2部長）

④労働金庫の展望と課題

報告・千頭和明（全国労働金庫協会常務理事）
討論・杉本時哉

第11回 95年1月「破綻信組の救済をめぐる」
平石裕一

第12回 95年3月「協同金融のひとづくりについて」

第1報告：穂満 稔（東京信用金庫協会事務局長）

第2報告：野村 攻（全国信用組合中央協会常務理事）

第3報告：阿部四郎（中央協同組合学園学園部次長）

第4報告：三好芳朗（東京労働金庫教育部長）

第13回 95年5月「転換期の地方銀行経営～貸出運用力の強化を～」杉村正裕（武蔵野銀行経営政策室部長代理）

3. 「ニュースレター協同金融」の発行

第1号 95年6月発行

新たなる研究会の発足のための呼びかけ

時評「発想の転換を」森静朗

ドイツ便り第1信 斎藤正

第12回研究会報告4名の要旨

第2号 95年8月発行

コラム 杉本時哉

時評「一人一票とワンマン制」佐伯尚美（新潟大学名誉教授）

「コーペラチブ・ガバナンスと監査制度」角瀬保雄（法政大学教授）

第13回研究会報告 杉村正裕

第3号 95年10月発行予定

コラム 炭本昌哉

時評「銀行の貸出責任を問う」

山田弘史（名古屋経済大学名誉教授）

第14回研究会報告4名の要旨など

以上が現在まで発行してきた「ニュースレター協同金融」の内容であるが、今後も会員の意見を反映させ、広い角度から協同金融に検討の光を当てるように多才な人材の協力を仰ぎたいと考えている。

4. 生協総合研究所の

バック・アップについて

この小さなかつ自主的な研究会に生協総研の積極的で献身的な協力がえられなかったら、これまでの成果も存続もありえなかったろう。会場の提供、庶務雑務の引き受け、費用の援助などなど回り知れぬものがある。同研究所の岡本好広常務理事、首席研究員大嶋茂男、同主任研究員笹野武則各位の協同組合精神に溢れた配慮に感謝するとともに、協同組織金融機関の組合間提携がさらに発展するために、関係諸団体の理解がこれを機会に深まることを願うものである。

5. むすび

総会の成立要件もうたわず、見様によれば形式的に不備で、かつメリットもない会であることは間違いないが、強みは4業態の協力という例のない組織とそれに理解を示して参加している会員・賛助会員の熱意であろう。今後の多くのかたの暖かい支援と指導をお待ちしている。